

三康図書館所蔵資料『長谷川雪旦先生江戸名所図会下絵』について執筆された論文が掲載されました

日頃より三康図書館をご利用くださりありがとうございます。

この度、アムステルダム大学人文学部歴史学特任研究員安永麻里絵氏が、当館所蔵資料『長谷川雪旦先生江戸名所図会下絵』について調査し、考察された論文「江戸の都市空間を描く三康図書館所蔵長谷川雪旦筆《江戸名所図会下絵》二巻について」が、「浮世絵芸術」No. 184に掲載されました。

『長谷川雪旦先生江戸名所図会下絵』は2巻あります。江戸時代後期天保5(1834)年、および天保7(1836)年に出版された江戸の名所旧跡の案内書『江戸名所図会』挿絵の下書きです。江戸時代後期の絵師、長谷川雪旦(ハセガワ, セツタン)(1778-1843)が描きました。雪旦は、現地に赴き、大体縦約23cm、横約17cmの小片の和紙に風景や人物などをスケッチしました。その下書きが、経緯は不明ですが、日本画家の河鍋暁斎(カワナベ, キョウサイ)(1831-1889)の手に渡りました。河鍋暁斎が、これらの下書きを貼り合わせ、卷子本(カンスボン)(巻物)に仕立てられました。また、『長谷川雪旦先生江戸名所図会下絵』が納められている木箱の蓋の裏には、下絵の卷子本は5巻あったことや、日本画において、河鍋暁斎の弟子であった、鹿鳴館や、ニコライ堂等を設計した明治政府のお雇い外国人として雇用されイギリスから来日した建築家ジョサイア・コンドルに乞われて3巻贈ったことが書かれています。なお、ジョサイア・コンドルの教え子には、東京駅を設計した辰野金吾(タツノ, キンゴ)(1854-1919)や迎賓館を設計した片山東熊(カタヤマ, トウクマ)(1854-1917)等の建築家があります。

安永氏は『長谷川雪旦先生江戸名所図会下絵』にある挿絵の下書きが、出版された『江戸名所図会』のどの挿絵に対応するものなのかを調査され、論文の最後に「表1. 三康図書館蔵《長谷川雪旦筆江戸名所図会下絵》下絵の主題と対応する版本版挿画の一覧」としてまとめてくださいました。2巻あわせて101図について調査くださった安永氏に心から感謝申し上げます。

『長谷川雪旦先生江戸名所図会下絵』は現物をどなたでもお手に取ってご覧になれますので、ご来館をお待ちしています。

なお、当館ホームページでは、資料のデジタル画像を公開しています。URLは以下の通りです。

箱(6枚) https://sanko-bunka-kenkyujo.or.jp/asset/00032/shitae_hako.pdf

1巻(64枚) https://sanko-bunka-kenkyujo.or.jp/asset/00032/shitae_1.pdf

2巻(51枚) https://sanko-bunka-kenkyujo.or.jp/asset/00032/shitae_2.pdf

今後、『長谷川雪旦先生江戸名所図会下絵』について安永麻里絵氏による講演会を開催する予定です。

詳細が決まりましたらホームページやFacebook、Twitter、チラシでお知らせします。

三康図書館